

今週のメニュー

■トピックス

◇第26回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

■随想

◇ゲリラ豪雨に気をつけて

気象予報士・防災士 水越 祐一

■トピックス

◇第26回 塩ビ工業・環境協会 総会・懇親会を開催

5月16日に塩ビ工業・環境協会は第26回通常総会・懇親会を開催いたしました。懇親会には官庁、報道関係、関係業界などの方々にご参加いただきました。栗田会長の挨拶に続いて、来賓の経済産業省 製造産業局 恒藤審議官から祝辞をいただき、吉池副会長の発声で乾杯のあと、歓談に移り、盛況のうちに終了いたしました。以下に、栗田会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。



栗田会長



恒藤審議官

「本日は、皆様ご多用のところ、ご来賓として経済産業省より大臣官房審議官 製造産業局担当 恒藤 晃^{つねとうあきら}様をはじめ、関係官庁様、関連企業様、関係団体様、報道関係様、そして日ごろからお世話になっております多数の方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素より塩ビ工業・環境協会の活動へのご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。



吉池副会長

本年は年明け早々悲しいニュースが飛び込んで参りました。信越化学会長で、塩ビ工業・環境協会の初代会長も務められた金川千尋さんが、1月1日に永眠されました。金川氏は塩ビ業界の発展のみならず、塩ビに関する正しい理解の普及にも大いに尽力されました。金川氏のご功勞に感謝致しますと共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、私ども協会の懇親会は四年ぶりの開催となりますが、この間、新型コロナウイルス感染症の影響による世界経済の停滞や、2022年2月のロシアのウクライナ侵攻による原

燃料価格の高騰、物流の混乱などによる塩ビ樹脂業界への影響は大きく、コロナ前の2019年度 生産量 169 万 t、内需 102 万 tであったものが、2022年度 生産量 146 万 t（▲14%） 内需 90.3 万 t（▲11%）と大幅な減少となりました。

2023年度は、インバウンドを含む国内消費の回復、半導体不足の解消による自動車の生産台数回復、緩和的な財政・金融政策による景気の下支えなどによりコロナ前の水準に戻ることを期待したいところです。

一方で、塩ビ樹脂をはじめプラスチックを取り巻く環境は、「プラスチック資源循環促進法」施行をはじめ、2050年度カーボンニュートラルの実現に向けた動きや「海洋プラスチック問題」など、引き続き当業界にとっても厳しい状況にあります。

このような背景のもと、2023年度の協会活動においては、LCAの観点や耐久消費材としての塩ビ製品の長寿命性、さらに省資源性、リサイクル性能や難燃性能などの優位性を最大限アピールし、塩ビが循環型経済やカーボンニュートラルの実現に貢献する樹脂であることを実証、発信して参ります。

まず【広報活動】では、若年層への訴求を主眼に SNS 媒体などの活用と共に、コロナ禍で停滞していた出前授業等にも注力し、塩ビに対する正しい理解の普及促進を図って参ります。また2023年度は PVC Award 2023 を開催し、塩ビ製品の社会への貢献や新たな可能性をアピールして参ります。

【建材の開発と普及促進】では、住宅での遮熱・断熱性能向上による省エネルギー化に対して、開口部周辺での塩ビ建材の採用が大きく貢献し得ることをアピールしてまいります。また、樹脂窓の認定試験の合理化などに取り組むことで、樹脂窓の開発および普及の促進に貢献して参ります。

【リサイクル推進活動】では、樹脂窓リサイクル検討委員会、リサイクル支援制度の運用に加えて、昨年11月に新たに発足した塩素循環検討会の活動を通じて循環経済化への貢献を追求して参ります。

また、コロナ禍からの回復により、【各種国際会議】にも積極的に参加し、グローバルな塩ビ産業振興活動に貢献すると共に、化学物質管理、環境関連、労働安全衛生等に係る各種法規制情報の収集と共有化に努め、適切に対応して参ります。

最後に、塩ビ産業の成長と発展を祈念致しますとともに、本日、ご列席の各社様の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴有難うございました。」



■ 随想

◇ゲリラ豪雨に気をつけて

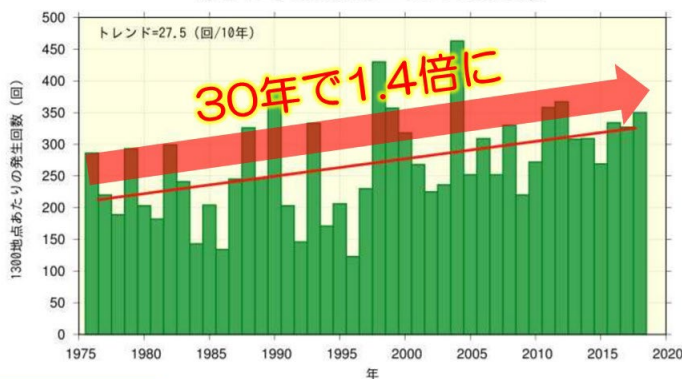
気象予報士・防災士 水越 祐一

「ゲリラ豪雨」とは、局地的に短時間で降る非常に激しい雨のことで、多くの人になじみのある言葉になっています。よく使われるようになったのは 2000 年代に入ってからで、2008 年の「新語・流行語大賞」のトップ 10 に選ばれています。ただこの言葉、気象庁では正式な気象用語としていません。また、この言葉に対する批判的な意見もあります。理由の一つは、「ゲリラ」という言葉が軍事的で不適切であるというものです。また「豪雨」は激甚災害が発生した時に使われる用語（例えば「西日本豪雨」「東海豪雨」など）であることから、局地的な現象に使うのはふさわしくない、という指摘もあります。テレビのニュースや天気予報をよく聞くと、別の言葉に置き換えている放送局があることに気が付くと思います。

言葉の是非はさておき、突然の局地的な大雨が増えていることは確かです。1 時間に 50 ミリ以上の非常に激しい雨の全国の発生回数は、1980 年頃と最近を比較すると約 1.4 倍に増えています。原因はやはり地球温暖化で、空気には気温が高くなるほど水蒸気を多く含むことができるという性質があるからです。21 世紀末には、非常に激しい雨の発生回数はさらに約 2.3 倍に

「非常に激しい雨」が増えている

【アメダス】1時間降水量50mm以上の年間発生回数



今世紀末

非常に激しい雨は2.3倍に

気象庁「日本の気候変動2020」

増加すると予想されています。（「日本の気候変動 2020（気象庁）」）



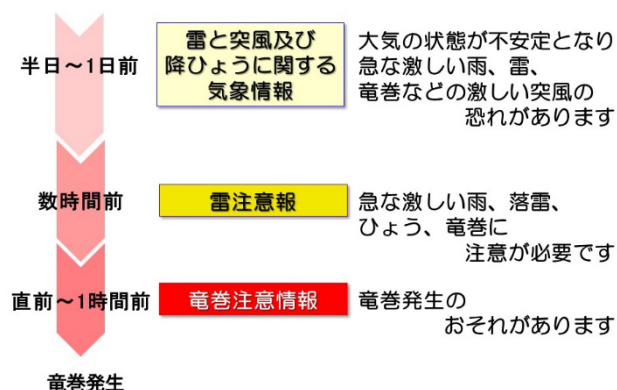
「ゲリラ豪雨」が発生すると、わずかの時間で中小河川が増水したり、低地やアンダーパスが冠水したり、地下に水が流れ込んだりして、災害が発生することがあります。2008年7月28日、神戸市の都賀川では、急に増水した川に流されて児童を含む5人が死亡するという事故がありました。神戸市が設置したライブカメラには、増水前はひざ下くらいの水量しかなかった川が、滝のような濁流に一変する様子が捉えられています。川の水位は、わずか10分で1m30cmも上昇したとされています。

「ゲリラ豪雨」で危険なのは雨だけではありません。発達した積乱雲は、雷や竜巻、ひょうをもたらすこともあります。2012年8月18日には大阪市の公園で樹木に落雷、木の下で雨宿りをしていた女性2人が亡くなりました。「側撃雷」といって、樹木に落ちた雷が人体に飛び移ることがあります。雷雨の時に木の下で雨宿りは決してしないようにしましょう。竜巻の被害も、2012年茨城県つくば市、2013年埼玉県越谷市の被害など、近年多くなっています。昨年2022年は5月から6月にかけて関東でひょうの被害が相次ぎました。私が住んでいる埼玉県春日部市でも名産の梨が大きな被害を受け、カーポートの屋根に穴が空いているのをあちこちで見かけました。



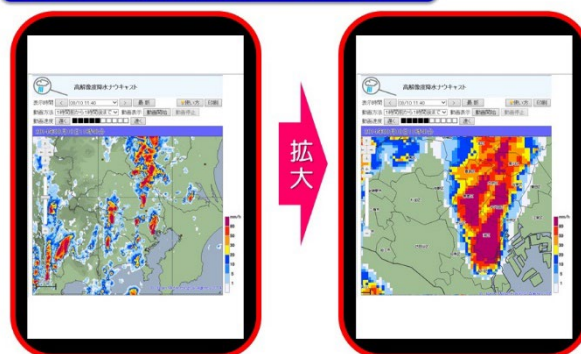
「ゲリラ豪雨」がいつ、どこで発生するか、ピンポイントで予想することは現状の予測技術ではまだ困難です。現象の規模が小さく、コンピューターのシミュレーションの網目にかからないためです。ただ、ゲリラ豪雨が起こりやすい状況かどうかは事前に予想可能です。まず气象台から「雷と突風および降ひょうに関する気象情報」が、半日～1日前に発表されます。天気予報でも気象キャスターが「天気が急変する恐れがあります。急な激しい雷雨、竜巻、ひょうに警戒してください」などと伝えるようになります。数時間前には「雷注意報」が発表されます。そして「竜巻注意情報」が発表されたら、今まさに激しい雷雨が起きていて竜巻が発生しやすい危険な気象情報になっている時です。「降水ナウキャスト」や「竜巻発生角度ナウキャスト」で周辺の詳細な状況も確認しましょう。情報は屋外でもスマートフォンなどで見ることができます。

急な大雨・雷・竜巻の気象情報



スマートフォンなどの活用

気象庁 高解像度降水ナウキャスト



気象庁ホームページより

積乱雲が近づくサインを見逃さない



気象情報を確認しつつ、空の変化に注意をすることも重要です。雄大な積乱雲が発生していないでしょうか？また、真っ黒い雲に覆われる、雷の音が聞こえてくる、急に冷たい風が吹いてくる、といった変化は、激しい雷雨が近付いているサインですので、速やかに安全な屋内に避難するようにしましょう。「ゲリラ豪雨」は突然発生しますので、「自分の身は自分で守る」という意識を持つことが特に大切です。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp